

2011年12月16日

各位

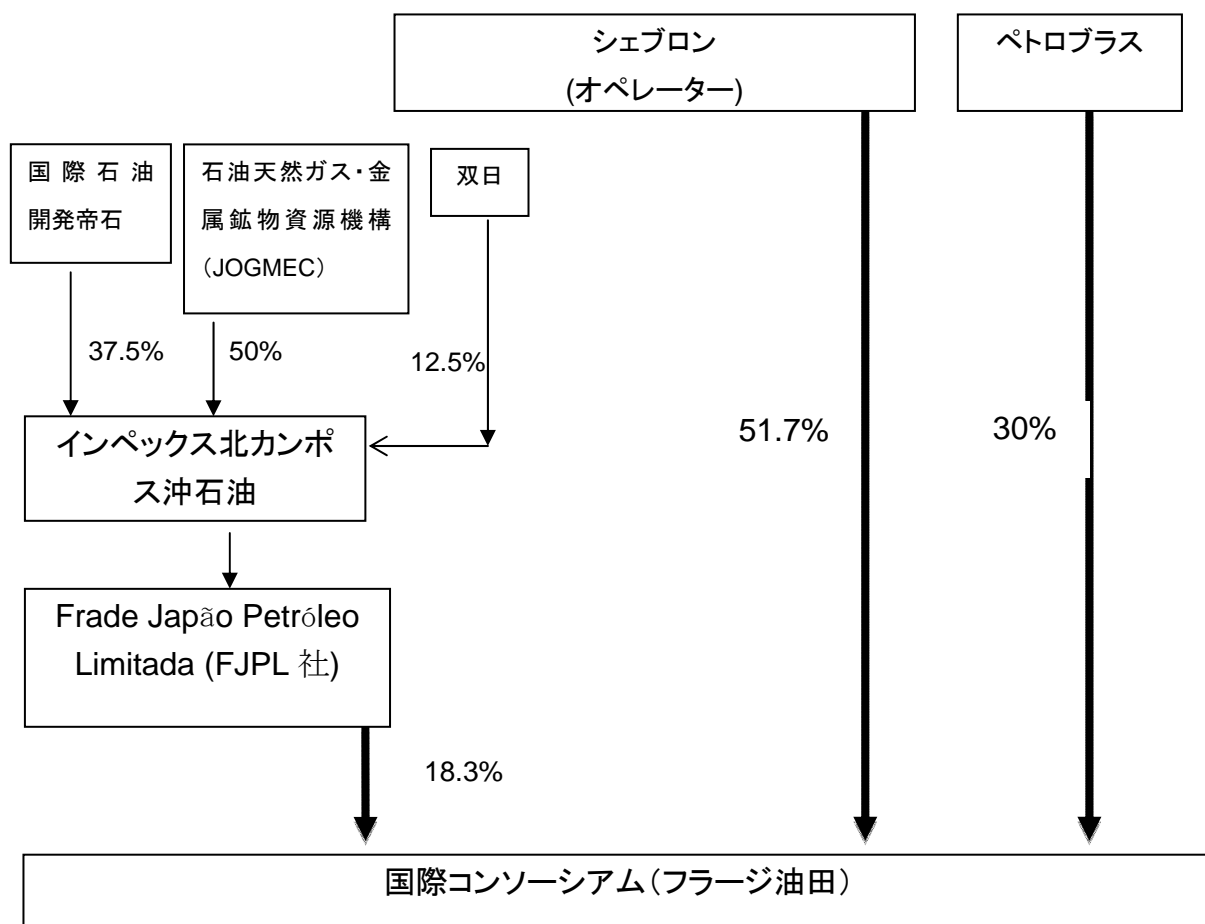
双日株式会社

ブラジル、フラージ鉱区近傍における油流出関連  
ブラジル検察当局による損害賠償請求報道について(お知らせ)

当社が、国際石油開発帝石株式会社、および、独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）と設立したインペックス北カンポス沖石油株式会社を通じて出資するブラジル連邦共和国北カンポス沖合フラージ油田に関しまして、ブラジル検察当局が損害賠償請求と操業停止命令をしたとの一部報道につきまして、オペレーターのシェブロン社からの情報および同社の対応につき、日本側コンソーシアムのパートナーである国際石油開発帝石社からの情報を添付にお知らせいたします。

以上

<プロジェクト実施体制図>



(概説)

本プロジェクトは、FJPL 社 18.3%、米国シェブロン社 (Chevron、オペレーター) 51.7%およびブラジル国営石油会社ペトロブラス (Petrobras) 30%の参加権益比率で構成する国際コンソーシアムが事業を実施しております。フラージ油田は、1986年に発見されましたが、探鉱・評価段階にあった1999年に、ペトロブラスの実施する入札に参加し、権益を取得、2009年6月より生産開始したものです。

【本件に関する問い合わせ】

双日株式会社

広報部

03-5520-2299

2011年12月15日

国際石油開発帝石株式会社

ブラジル、フラージ鉱区近傍における油流出関連  
ブラジル検察当局による損害賠償請求報道について（お知らせ）

2011年11月24日にお知らせしましたフラージ鉱区近傍の海上における油流出に関連し、ブラジル検察当局による損害賠償請求に関する一部報道について、プロジェクトオペレーターのシェブロン社からの情報及び同社の対応は以下の通りです。

- ・ ブラジル検察当局より今回の油漏洩による環境被害に関して、シェブロンやその他の会社に対し200億レアル（107億ドル≒約8,300億円）の損害賠償請求を行い、また操業停止命令が出たとの報道がありましたが、シェブロンはこれに関する正式な通知を受けておりません。また、操業停止についても監督官庁からの指示を受けておりません。
- ・ シェブロンは今回の事故の際し、事故発見から適切に対応しており、ブラジル当局と共に透明性の高い処理を行ってきております。
- ・ 油漏洩の原因は速やかに対処され、4日間のうちに油のしみ出しは収まっており、継続して微量の油の流出の封じ込め作業も行っています。
- ・ 海上の油膜は、0.16m<sup>3</sup>（1bb1）以下まで回収されており、海岸や野生生物への影響は確認されていません。

今後もシェブロン社と連携しつつ、同社からの更新情報が入りましたら、逐次お知らせいたします。

以上

【本件に関する問い合わせ】

国際石油開発帝石株式会社

広報・IRユニット

03-5572-0233